令和４年度

第１回　進路説明会

日　時：　　令和４年６月１７日（金）

１５：２０～

場　所：　　深谷中学校体育館

内　容：　　１、学校長挨拶

２、進路学習・進路決定に向けて

３、質疑応答

４、３年学年主任より

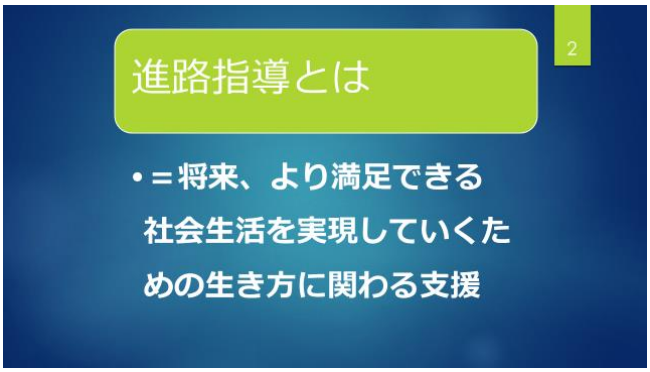
横浜市立深谷中学校

目次

１．第１回進路説明会　スライド資料・・・・・・・・・・Ｐ２～Ｐ７

２．３学年が進路学習で使用している資料・・・・・・・Ｐ8～Ｐ１６

学校説明会等の実施方法や変更などの情報は、進路通信を通してお伝えしていきたいと思います。今回の進路説明会では、本校での進路選択に向けての進路指導について、進路先の種類や高等学校についての内容を中心に、お伝えしていきたいと思います。

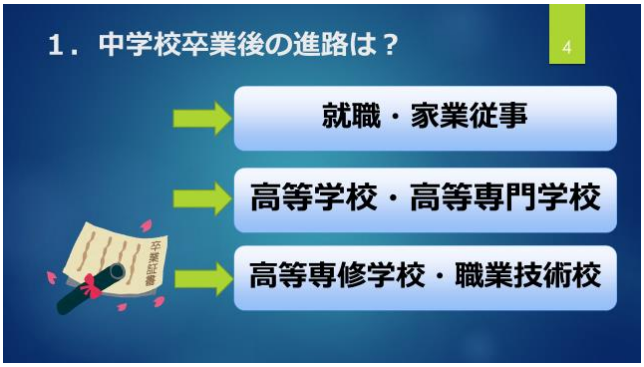


進路指導というと、とかく就職や進学のための指導と考えてしまう傾向があります。

しかし、進路指導とは「子どもたち自らが、将来、より満足できる社会生活を実現していくための生き方に関わる支援」と考えます。つまり、中学卒業後の進路という短期的なものではなく、その先ずっと続く長い将来にわたる、自らの生き方を考え、そのためにどんな進路選択がいいのかを考えていくことです。

中学校を卒業すると、大まかには進学と就職に分かれます。様々な選択肢の中から、自分にあった進路先を見つけていきます。どちらに進んでも、「中学校を卒業する」ということは「義務教育を終える」、言い換えれば「社会に出る」ということです。

つまり、何事にも「責任が伴う」ということを自覚しなければなりません。



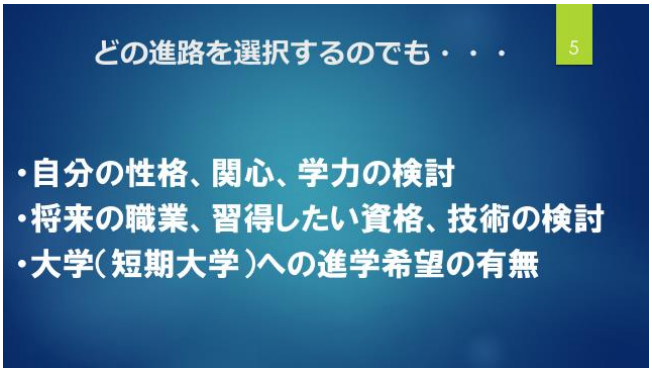
進路選択をするにあたって、もう少し具体的に分けたとき、次の３つに考えられます。

①就職や家事手伝い

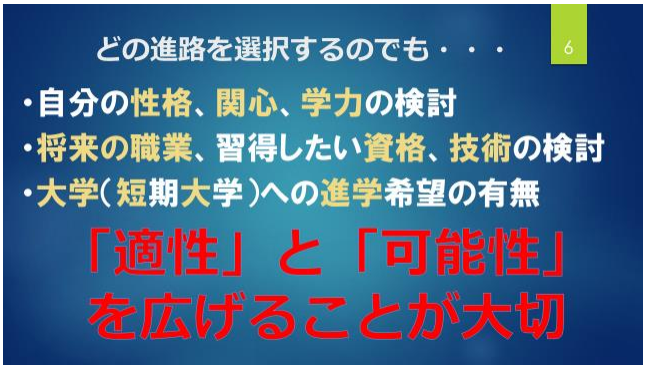
②進学　高等学校、高等専門学校

③高等専修学校や職業技術校

です。



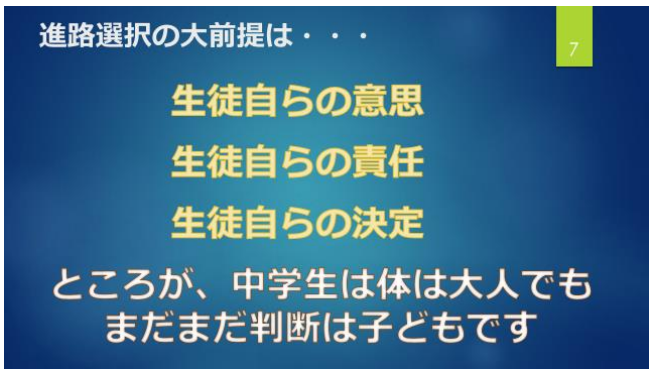
どの進路に進むにせよ、３つのことを確認しながら本人とともに、考えをかためていきましょう。



そして、現段階において、中学生においては、適性と可能性を広げられるように生活をしていくことが大切となります。

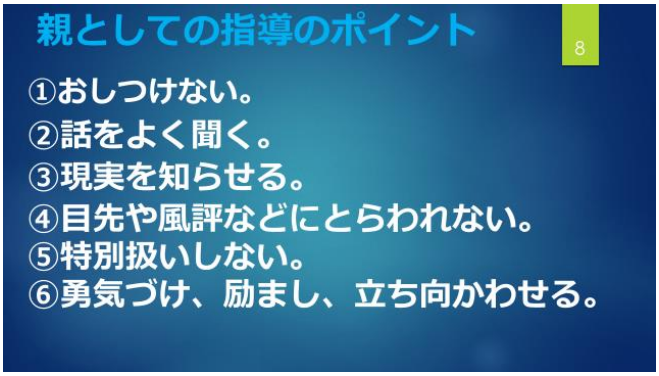
適性を広げていくには、**日々の学校生活の中で、様々な取組に積極的に参加すること**です。

可能性を広げるためには、学習も含めて、**得意なジャンルを伸ばすだけでなく、苦手分野の克服、苦手に立ち向かって乗り越えていくこと**が必要です。



中学生は、大きな子どもです。中学校の卒業は、大きな子どもから小さな大人になることを意味している部分もあります。社会に出てもいいということは、社会的責任を負うことができるとみなされているということになります。

社会的責任を負うことができるということは、その進路の選択、人生の選択において**①自らの意思②自らの責任③自らの決定**により生活ができるということが大前提です。ところが、中学生は、身体も心も成長していきますが、まだまだその判断は子どもです。



そこで、一番身近なアドバイザーとしての保護者の皆さんの協力やサポートが必要になります。次の６点を意識してお子さまと話をする時間を取ってみてください。

①保護者の方々が大切に育てているお子様ですが、自我が確立し、自分の意思を持っています。

②子供の話をよく聞いてあげてください。聞いてあげるだけでも、子どもの気持ちや考えが整理されることも多くあります。

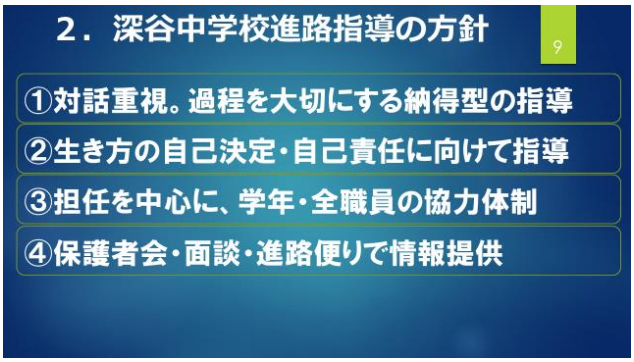
③家庭の経済状況などをきちんと理解させてあげてください。でも、理想や夢を台無しにするような認識のさせ方は避けた方　がいいでしょう。

④世間体や、風評に左右されずに、子どもの個性や資質に見合った進路選択ができるようにどっしりと構えてしまいましょう。

⑤いざ３年生になり、いわゆる受験生になった時に、特別扱いをするのはよくありません。ハレモノのさわるようなことはしない。

誰もが必ず通る進路選択の時期に差し掛かっているだけです。

⑥目標を立てたら、しっかりとそこに向かって立ち向かわせることが大切です。初心を忘れずに、なぜその選択をしたのかを振り返り、勇気づけます。



深谷中学校の進路指導の３年間の流れとしては

○１年生の時に、職業講話を行う。

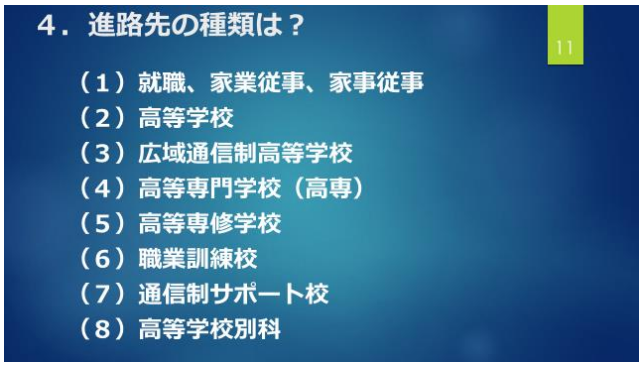
（20,21 年度は中止）

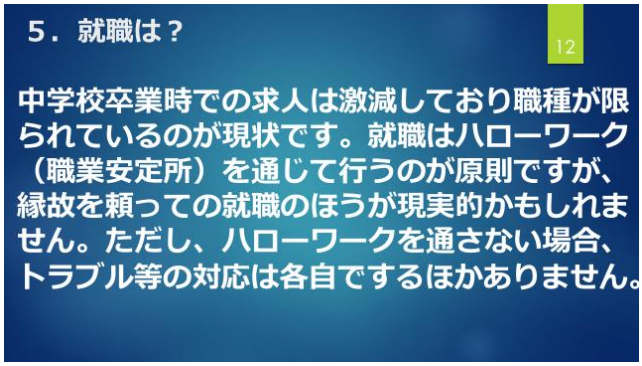
講師：医師、理容師、建築大工、造園、ステンドグラス、調理師(西洋料理)、洋菓子製造、消防士など

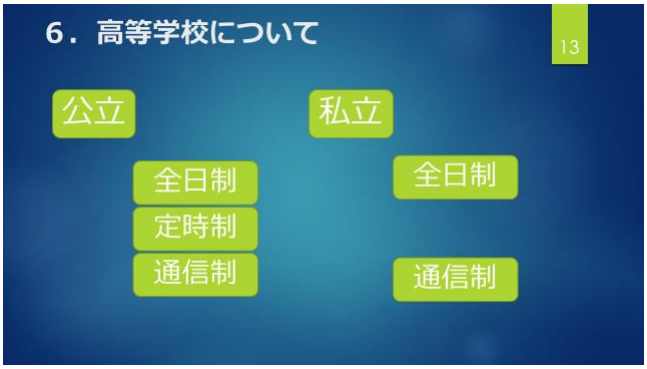
○２年生の時に、学区周辺中心に４０事業所（小学校、小売店、区役所等）で職業体験を行う。

（20,21 年度は中止）

○３年生になると具体的な進路選択、進路決定となります。そして、それぞれの学年で仲間づくり、仲間との集団作り、自分を見つめるという時期が用意されています。







一番多くの割合で、深谷中学校では高等学校に進学します。しかし、高等学校にも種類がたくさんあります。

画面上では、公立と私立の制度をあらわしたものです。冊子のＰ１３～１５に詳細が載っています。

調査書とは・・・

14

・２年学年末と３年進路成績の９教科の観点別評価（　A　B　C　）

・２年学年末の９教科の評定と３年進路成績の９教科の評定

（　5　4　3　2　1　）

・総合的な学習の時間の記録

→総合的な学習での具体的な活動の状況や特徴、進歩の状況

・特別活動等の記録

→中学校３年間の特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）と部活動

・行動の記録及び所見

→中学校３年間の学校生活全般にわたる行動状況

私立高校によっては１年の成績や出欠席・遅刻・早退状況を聞いてくる学校もあります。

公立高校（全日制）の選抜方法

15

第１次選考（定員の９０％）

A値：調査書の評定：（第２学年・学年末評定の合計）＋（第３学年・進路評定の合計）×２

４５　＋　９０（４５×２）　＝１３５

B値：学力検査（３～5教科）の各教科（それぞれ１００点満点）の　得点合計

C値：面接

D値：特色検査（実施する高校のみ）

★それぞれを１００点満点に換算し、各学校の割合をかけたものを合計し、上位から９０％までを合格者とします。

第２次選考（定員の１０％）

B値：学力検査（３～5教科）の各教科（それぞれ１００点満点）の　得点合計

C値：面接

D値：特色検査（実施する高校のみ）

16

3　神奈川県公立高等学校入学者選抜制度改善方針の内容

（1）改善内容

ア　選抜時期の変更点

（ア）定通分割選抜の実施時期を繰り下げる。

（イ）定通分割選抜の二次募集は実施しない。

イ　選抜における検査等の変更点

（ア）共通選抜（全日制・定時制）における共通の検査は学力検査とし、面接は実施しない。ただし、クリエイティブスクールにおいては、学力検査を行わず、特色検査（面接）を実施する。

（イ）特色検査で実施する検査は、実技検査、自己表現検査、面接とする。

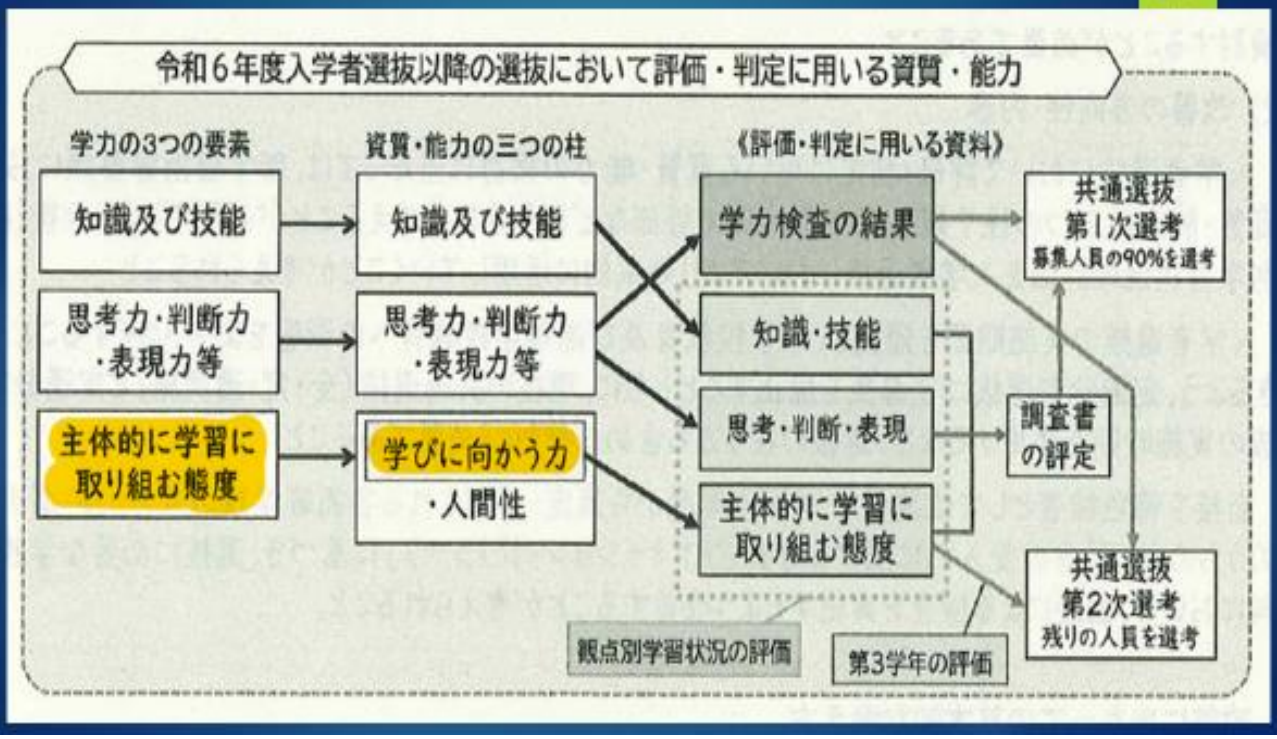
（ウ）「学びに向かう力」については、中学校の観点別学習状況の評価のうちの「主体的に学習に取り組む態度」により評価する。

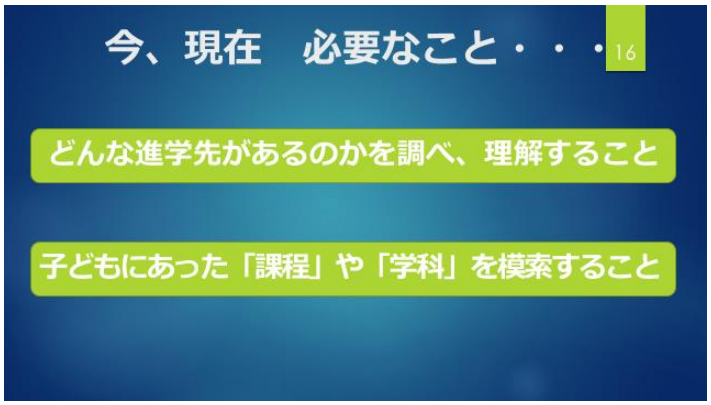
（エ）共通選抜（全日制・定時制）における第1次選考においては、調査書の学習の記録の評定及び実施した検査の結果を活用して選考する。

（オ）共通選抜（全日制・定時制）における第2次選考においては、実施した検査と各教科の第3学年の「主体的に学習に取り組む態度」の評価を活用して選考する。

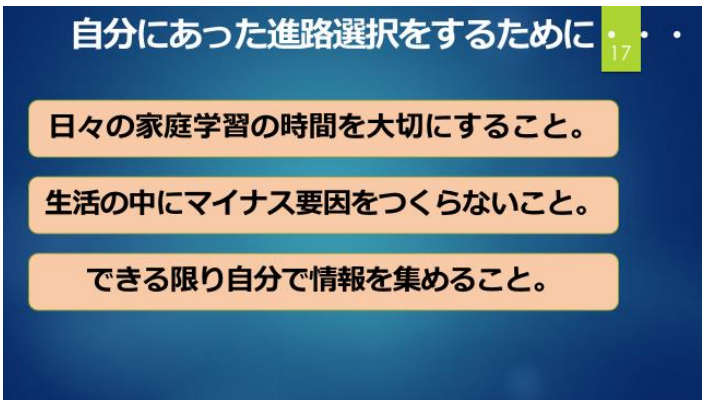
（2）実施時期　令和6年度入学者選抜から改善した内容で実施

17





今現在、必要なことはこの２つです。お子さま自身が自分の好きな事や関心がある事に気付き、それを活かしていけるような進学先（進路）を調べていくことが大切です。また、様々な「課程」や「学科」について進んで調べることも必要になります。



学習面では、やはり、学校だけの勉強だけでなく、十分な家庭学習の時間が必要です。この時間を確保することで、教科の勉強で得た知識が定着します。学習に対して、粘り強く取り組む姿勢も身に付きます。

生活面においては、前向きに取り組むことで、自分のプラスの要素をたくさん発見できます。前向きな考え方や言葉を発することで、目標を持ちさらにチャレンジしてみようという気持ちに変われます。自分に自信をもって、高い目標にも挑戦しようという意欲が湧いてきます。最後に、進路に関わる情報は、学校からも提供をしますが、その情報をもとに自ら情報量を広げていくことが大切です。興味や関心に基づいてどんどん調べていくことが大切です。

３年生が進路学習で使用している資料です。

１．中学校卒業後の進路は？

将来に向けての自分の見通し、どのような職業に就きたいか、どのような社会生活を送りたいか。このことをしっかり考えることで１年後が変わっていきます。まずは、ここから始めていきましょう。

中学校卒業後の進路を大きく分けると、次の３つになります。

①就職、家業従事、家事従事

②高等学校（全日制・定時制・通信制）、高等専門学校へ進学

③高等専修学校、職業技術校、高等学校別科（理容・美容）などへ進学

この中の、どの進路を選択していきますか。次のことを参考にし、本人とともに考えをかためていきましょう。

ア）自分の性格、関心、学力の検討

イ）将来の職業、習得したい資格、技術の検討

ウ）大学（短期大学）への進学希望の有無

家庭の状況、保護者の考え

進路の選択にあたっては、家庭で十分に話し合うことが必要です。また、基本的には保護者と学級担任のアドバイスのもとに、**生徒自らの意思と責任において決定する**ことが大切です。とはいうものの、このことは決して簡単なことではありません。生徒は自らの興味・関心・適性を把握し、家庭の経済状態や生徒の学力などを考慮して、家族で、慎重に考えていくことが必要です。また、学級担任と生徒との「二者面談」や保護者の方を交えた「三者面談」もありますので有効に利用して、よりよい進路の決定に役立ててください。

生徒自らの日常生活の取り組みとして

①目標をもってけじめのある日常生活を送れるようにしよう。

②学習に真剣に取り組み、基礎的な学力をしっかりつけよう。

③委員会や係活動、清掃など自分のやるべきことにまじめに取り組もう。

④自分の考えをしっかり伝え、保護者や先生と十分に話し合おう。

２．深谷中学校進路指導の方針

①対話の機会をできるだけ増やし、進路決定までの過程を大切にし、納得のいく指導を目指します。

②生徒が進路の選択を含め、将来の生き方を自分の意思で選択し、自分自身の責任で進路決定ができるように、指導・助言します。

③学年統一見解のもと、職員全員の協力態勢の中で指導にあたります。

④進路保護者会、面談等を通じて、可能な限り情報を提供します。

３．進路に向けての予定

進路関係の書類、提出物は期限厳守です。遅れると受けつけてくれません。

① 夏までに

まだ余裕がある時にこそ自分自身をしっかりと見つめさせましょう。自分の特性（能力、長所、短所、興味、関心など）をしっかりと把握させ、そこから少しずつでも将来の自分の就く職業や生活を考えさせてみましょう。この間に　**進路学習・第１回進路希望調査（６/１７）・第１回進路説明会（６/１７）**、と進めていきます。

② 夏～秋

６月ごろから公・私立の各学校の説明会、体験学習などの案内が続々と来ます。目的をもたせて、積極的に参加させてください。**現在、コロナ禍において、説明会や体験などの実施の有無や実施方法が学校によって様々です。実施する学校の多くが予約制をとっています。ぜひ、各自で最新情報を確認して、可能な形式で参加しましょう。**

また、２年生の成績からこれまでの学習を振り返らせ、弱点が明らかになった場合、それを克服する時期としてとらえてください。

９月初めに第２回進路希望調査を配布し、提出していただきます。夏休み中のお子様の学習の取り組みや気持ちを確認していただき、第１回よりも具体的にご記入ください。

③ 秋～冬

１１月と１２月に三者面談を行い、希望をより具体的にしていきます。**特に１２月の三者面談では、進路用の成績を見ながらの相談になります。**また、調査書の完成に向け「３年間の記録」を活用し、ご家庭と連絡を取りながら記入事項を確定します。

第３回進路希望調査を行い、決定になります。私立高校の受験校は年内に決定します。

就職を希望する場合は、１１月にはハローワークへの相談票作成、職業相談と進み、１２月に職場見学を行ったあと、志望する就職先の試験を受けることになります。（ハローワークを通す場合）

④ 冬

いよいよ本番です。１月に入ると願書提出・受検（験）・発表などが、公立・私立入り交じり、一人ひとりちがった日程になってきます。

このように、学習についてはしっかりと実力をつけていくことが大切です。また、面接シート記入や面接などで、自分の事についてきちんと表現できる力もつけることが大切です。教科の学習だけでなく、いろいろな場面を通して自分を表現できる力をつけていってもらいたいです。県・市からのプリントや冊子、中学からの進路だよりなどを通して、いろいろな情報を発信していきますので、ご確認ください。

４．進路先の種類は？

（１）就職、家業従事、家事従事

就職、すなわち働くこと。それによって自分自身の生活を自分の手で支えている、「大人社会の活動」で、一人前の社会人として世の中で活動することです。したがって就職は最も厳しい道であると言えます。

（２）高等学校

①公立・私立の違い

学校の設置者により、公立と私立があります。公立とは、県や市が設置者、私立は、民間の学校法人が設置者。公立と私立では、教育方針や費用など、さまざまな違いがあります。

神奈川県内の公立高等学校は、県立高等学校と市立高等学校があり、各校で特色ある高校づくりがすすめられています。私立高校は、教育内容に公立と大きな違いはありませんが、教育目標、校風、伝統などがはっきりと打ち出され、それぞれに特色がありますので、学校説明会などに積極的に参加して、自分に合っているかどうかよく確かめる必要があります。

② 課程の違い

学習時間や学習方法などの違いで、次の３つの「課程」に分かれます。

● 全日制　● 定時制　● 通信制　　※詳しくはＰ１３～Ｐ１４を見てください。

③ 学年制、単位制の違い

学年制では、中学校と同じように１年ごとに進級します。単位制では、学年の区分がなく、必要な単位数を習得することで、卒業できます。

（単位…５０分の授業を１年間に３５回受けることで１単位と数える）

（３）広域通信制高等学校

全国あるいは三つ以上の都道府県の生徒を募集対象とした通信制高等学校です。毎日通学する全日型や、週１～３日通学する日数選択型、自宅学習を基本として月に数回通学する通信型など、多様な通学スタイルを準備している学校が増えています。通学スタイルによっては３年で卒業できない場合もあります。

中学校時代に不登校であった生徒、学習不振のため基礎から学び直したい生徒などを対象としたコースもあるので、詳しく知りたい場合はご相談ください。

多くの学校では**通常の高等学校より早い時期から願書受付や入学のための審査が行われます。私立高校のみとなります**。

（４）高等専門学校（高専）

高等専門学校は修業年限が工業に関する学科は５年、商船に関する学科は５年６ヶ月となっており、技術者や研究者の育成を目的として、普通教育と専門教育を一貫して行います。

国・公立の高専への入学は難しく、高校へ行くには学力が足らないからと言った理由では、高専を受検しても合格は難しいと思います。

（５）高等専修学校

高等学校とは異なり、技術、技能を身につけて公的資格を得るなど、職業生活もしくは、実際の生活に必要な能力を育成し、教養の向上を目的とする学校です。修業年限は、１年～３年。修業年限３年の学校の中には修了すると「大学受験資格」が得られる学校や、通信制高等学校と連携し、「高等学校卒業資格」が得られる学校（技能連携校）もあります。高等学校よりも早い時期から願書受付や入学のための審査が行われる場合がほとんどです。

（６）職業訓練校

職業技術校は就職しようとする人、転職を考えている人、技能の向上を目指している人に技能者として必要な知識や技能を組織的、系統的に教えることで優秀な技術者の育成を目的としています。

従来は一部の学校・コースで中学校卒業者も対象となっていましたが、平成２０年に各地の技術校が統合されて開校した神奈川県立東部総合職業技術校（愛称「かなテクカレッジ」）では、社会人対象の専門性の高いコースが設置されているため、中卒者にも受験資格はありますが、中卒者のみを対象とした募集はなく、選択は難しいと思いわれます。

（７）通信制サポート校

通信制高校に在籍する生徒に対して、３年間で卒業できるよう単位取得・進級などに必要とされる支援を行う民間の教育施設です。「学校」としての認可を受けていないので、サポート校だけでは高校卒業の資格を取得することはできません。高校の卒業資格を得るためには通信制高等学校への同時入学が必要になり、学費も双方に納めなくてはなりません。

ただし、**学習面・精神面でのサポートを手厚くするのが特徴で、個人に合わせた教育活動を実施**しています。集団での活動を苦手としている生徒などに選択されることが多いようです。**こちらも、早い時期から募集が始まり、学校によっては年内に募集が締め切られる場合もあります。**

（８）高等学校別科

高等学校内にある科。（県内では、横浜市立横浜商業高等学校 理容科・美容科 のみ）特別の技能訓練を行います。

【本校卒業生が進学した広域通信制高等学校・高等専修学校・サポート校の例】
・広域通信制高等学校
　○クラーク記念国際高等学校横浜キャンパス
　○あずさ第一高等学校横浜キャンパス
　○鹿島学園高等学校横浜キャンパス
　○第一学院高等学校横浜キャンパス
・高等専修学校
　○ヨコスカ調理師専門学校（向陽台高等学校と技能連携）
　○岩谷学園高等専修学校（東海大学付属望星高等学校と技能連携）
　○横浜デザイン学院高等専修学校（星槎国際高等学校と技能連携）
・サポート校
　○ＫＴＣ中央高等学院横浜キャンパス（屋久島おおぞら高等学校同時入学）

５．就職は…

自分に合った職業を選ぶことは、自分の人生を左右する大切なことです。そのためには、自分自身をよく見つめ、自分を知ることが必要です。

また、「働くこと」は単に収入を得るためだけではありません。働くことによって、自分の能力を高め、その能力を発揮し、社会の一員となり社会に奉仕するのです。「就職するのだから、もう勉強はやらなくていい」という甘い考え方は禁物です。就職するのだからこそ、中学校の勉強や社会人としての礼儀作法等のマナー（これがいちばん大事！）をしっかり身につけておく必要があります。社会や企業は、基礎的な学力を身につけ、自分から向上しようと努力する人、その事業所のために役立つ人を求めています。

なお、中卒に対する求人は激減していて職種が限られているのが現状です。中卒での就職はハローワーク（公共職業安定所）を通じて行うのが原則ですが、縁故を頼っての就職のほうが現実的かもしれません。ただし、ハローワークを通さない場合、トラブル等の対応は各自でするほかありません。

６．高等学校について

公立高等学校

（１）全日制の課程

① 普通科

学ぶ目的…中学校で学んでいるような**普通科目を中心に幅広い知識と教養を身につけます**。

学習内容…国語、社会、数学、理科、芸術、保健体育、技術家庭、英語など各教科について中学校よりも詳しい分野を学習します。また、２・３年になると将来を見据えて理数系・語学系など系列を分け、就職や進学に備えて学習する学校が多くあります。

専門コース設置校…個人の得意分野を生かすため、外国語や美術、音楽などの学習を多く学ぶコースが設定されている普通科もあります。専門的な科目を３年間で１０～２０単位ほど学ぶことができます。

クリエイティブスクール…学習への意欲を高め、「わかる授業」の展開を推進しています。入学者選抜では、将来を切り開くために意欲的に学校生活を送ろうとする意志を重視した選考をします。

インクルーシブ教育実践推進校…共生社会の実現をめざし、知的障がいのある生徒に高等教育を受ける機会を拡大するため、障がいのある生徒もない生徒も共に学び相互に理解を深める教育に取り組みます。

主な進路…進学でも就職でも、幅広い範囲での進路選択が可能。就職者は、年々減少しているが、さまざまな産業に就職しています。他の学科に比べて進学率も高く、大学、短大、専修学校など広範囲に進学者が出ています。

学　　区…神奈川県立高校は、全県一学区。横浜市立高校は、市内一学区なので、どの学校も学区内受検になります。ただし、川崎市立高校普通科は、学区外受検です。

②専門学科

学ぶ目的…それぞれの分野で働くために必要な専門知識や技術技能を身につけます。

学習内容…**専門的な教育内容**で、専門科目を２５単位以上学習。専門的な学習を通して、さまざまな資格取得をめざすこともできます。**神奈川県内では、工業、農業、商業、家庭、福祉、海洋科学、厚生、外国語、理数、国際、国際情報、スポーツに関する学科を設置する学校があります**。

③総合学科

学ぶ目的…自己の将来をよく考えて自分に必要な学習を自分で選ぶことにより、自分の進路を切り開いていく力を身につけます。

学習内容…必修科目は普通科目のほかに、将来の職業生活の知識と技術を身につける「産業生活と人間」「情報に関する科目」「課題研究」があり、全員が履修。また、系列や自分の進路と結びつく「総合選択科目」「自由選択科目」があります。**これらの科目を一人ひとりの生徒が興味・関心・進路にあわせて選択するため、個別にさまざまな時間割ができます。**

主な進路…多くの生徒が、大学、短大、専修学校などへの進学を選択しています。就職についても業種は広範囲にわたります。

学　区…すべて全県一学区

（２）定時制の課程

夜間その他（午前または午後）の時間に高等教育が受けられます。学科は、普通科、総合学科、専門学科（工業、農業、商業）があります。

学 区…すべて全県一学区（一部は市内）

（３）通信制の課程

教科書など、学習の参考になる資料を使って、主に家庭で学習します。

横浜修悠館高等学校は、平日の昼間に登校して、学習指導を受けることができ、一人ひとりの学びが広がる新しいタイプの通信制高校です。学科は、単位制普通科。

学 区…すべて全県一学区

私立高等学校

学校の設置者が、民間の個人や団体であるため、高等学校ごとに特色が異なります。

（１）建学の精神

私立学校の最大の特徴は、建学の精神にあります。それぞれの学校には、その学校が設立された時に設けられた建学の精神というものがあり、入学案内等の巻頭に書かれています。その学校の源流であり、教育方針、校風、伝統など、その精神に基づいていますので、よく理解して選択しましょう。

（２）男女の別

公立校は男女共学ですが、私立校の場合、建学の精神により男子校、女子校と区別されることがあります。ただし、最近は男女別学だった学校も、共学校に変更しているところも増えています。募集要項等で確認しましょう。

（３）宗教教育

設立管理者が宗教団体になっている学校もあります。そのような学校では、宗教の考えを根幹においた教育を行っている場合もあります。

（４）一貫教育

公立校では、そのまま大学に進学できる学校はありませんが、私立校の中には、系列の大学や短大に進学できるシステムがある学校もあります。ただし、無条件で進学できるのではなく、「日常の成績が基準以上であること」や希望する学部や学科によっては、「より上位の成績が必要」になることが多いようです。

そこで、やむなく他大学を受験、または系列大学を一般受験しなければならないこと
もありえます。「附属（付属）高校に入学さえすれば、その大学の希望するところに進学できる」と、安易に考えるわけにはいきません。

（５）学費

私立高校ごとに金額が異なります。学費が高い分、一般的に設備がよく、行事や部活動などの規模も大きいようです。現在、私立高校は授業料が就学支援金により一定額、補助されています。

（６）学区

私立校には学区がなく、どこでも受験ができます。ただし、毎日通うことを考えると、通学時間は、１時間ぐらいを目安に考えたほうが良いでしょう。また、試験日が重ならなければ、複数校の受験が可能ですが、私立校同士の複数受験を許可しない学校が多いので注意が必要です。

【これからの心がまえ】

学習面

・「勉強はまだ大丈夫」という根拠のない考えを、早く改めましょう。

・1 年生は 1 時間、2 年生は 2 時間、3 年生は 3 時間。基礎の定着にかかる時間の目安です。

・検定（漢検・数検・英検） 3 級をもっていることは、面接で意欲的に取り組む姿勢をアピールできます。

・模擬試験を受けるチャンスがあれば、受けましょう。外部の模擬試験を受けることで試験の臨場感を感じることができ、自分の力を知ることもできます。

・定期試験を振り返り、間違った問題をやり直して理解しておきましょう。

・夏休みまでは基礎を固めて、夏休み以降は問題を多く解きましょう。苦手な教科の克服に努めましょう。

・特に 3 年間の振り返りが必要な教科（理科・社会）は、今が学習する大切な時です。

・技能教科にまじめに取り組みましょう。

・今が精いっぱい頑張る時です。

生活面

・心が乱れ、生活がだらしなくなると、学習に集中できなくなります。

・委員会や係活動、清掃など自分のやるべきことにきちんと取り組みましょう。

・常に前向きな気持ちをもちましょう。

・マイナス発言は、周りの人を嫌な気持ちにさせてしまうばかりでなく自分が言った言葉で自分自身を貶めます。マイナス発言はやめましょう。

・学級の中で、みんなで教え合い、支え合う雰囲気を作りみんなで応援し合いましょう。

その他

・学校説明会に積極的に参加しましょう。いろいろな学校を見ておくことは、自分の視野を広げます。行く可能性が少しでもある学校は、必ず行っておきましょう。（私立も）

・高校について自分で調べましょう（何が良くて、何が良くないか）。人から聞いただけでは、よく分かりません。

進路は・・・

自分の目でしっかりと観て、

耳でしっかりと聴き、

気持ちをしっかりと口にし、

自分の足でしっかりと歩んでいってください。